

全国生協連の助成金贈呈式

～ふくせんも参加～

去る12月15日、全国生活協同組合連合会（以下、全国生協連）等4団体（注）による「平成22年度助成金贈呈式」が、埼玉県にある全国生協連の会議室で行われた。ふくせんを含む全22団体が助成金の贈呈を受けた。

ふくせんではこの助成金を使用し、「福祉用具の有効で安全な利用を支援する福祉用具個別援助計画書等の作成環境の整備」というテーマで普及・啓発事業を行う。この事業では、福祉用具個別援助計画書の作成、継続的なモニタリングを確実に実施することにより、利用者の生活目標の実現を目指し、併せて、安全で安心して利用できる環境づくりを目指す。普及・啓発用のパンフレットを製作し、保険者等に配布する予定だ。

各団体の申請内容は様々だが、それぞれの事業の社会的意義が認められての今回の助成金の交付である。財日本チャリティ協会理事長の高木金次氏は、22団体を代表し、「テーマも目的も違うが、福祉に対する情熱は皆同じ。小さな力ではあるが、組合員一人一人のご理解とご支援の賜物を大切に、立派な仕事をしていきたい」と謝辞を述べた。

この助成事業は、全国生協連で昭和56年から、埼玉県共済で昭和60年から、東京都民共済で平成14年から、大阪府民共済で平成15年から始まった。社会貢献活動の一環として、社会福祉関係団体に助成金を贈呈している。財源は組合員からの共同募金の配分金であり、全国生協連理事長の小島比登志氏は、「事業の主旨をご理解の上、有効に使っていただきたい」と述べた。

ふくせんでは、福祉用具を利用することによる生活目標の実現を図り、高齢者福祉の増進を目指して、事業を展開したいと考えている。

注）全国生活協同組合連合会（全国生協連）、埼玉県民共済生活協同組合（埼玉県民共済）、東京都民共済生活協同組合（東京都民共済）、大阪府民共済生活協同組合（大阪府民共済）



助成金贈呈式の様子。



助成金を贈呈する全国生協連副理事長の中津清次氏（左）と、それを受け取るふくせん山本一志事務局長（右）。